

3月 入会記念日 おめでとうございます

3月12日 北橋茂登志会員 昭和56年 3月13日 久保 幸一会員 平成20年
 3月22日 早栗 義文会員 平成30年 3月25日 遠藤友一郎会員 平成 5年

【100周年記念誌の原稿を2660地区へ提出しました】

100周年誌「地区心の玉手箱（仮称）」寄稿

記入者	幹事 中川静夫	クラブ名	大阪難波RC
対象分野	国際奉仕、 社会奉仕 、青少年奉仕（青少年交換、米山、ローターアクト、インターアクト、財団奨学生、RYLA、その他（ ）、職業奉仕、クラブ奉仕、その他（ ））		
タイトル	「 絆 」		
該当期	2011年7月・8月		
<p><内容> 2011年3月の東北大地震のボランティア活動の為、7月と8月に2回に分けて現地入りしました。 一年前に秋のRYLAのホストとなった事で、関西大学の学生に呼びかけ、多くの学生も参加下さり、大人数で伺いました。 現地では清掃活動や、仮設住宅でのお手伝いに加え、当クラブ自慢の和太鼓による演奏で現地の方々を勇気づけ、プロの料理人による炊き出しで食の喜びも感じてくれた事だと思います。 又、学生たちにも貴重な経験やボランティア活動の有意義さも理解してもらい、改めて「絆」という意味も体験を通じて感じてくれたと自負しております。</p>			



これからの予定

3月31日（木）例会・臨時総会 4月 7日（木）例会・定例理事会
 4月 9日（土）2022-23年度のための地区研修・協議会
 4月14日（木）例会
 4月17日（日）三姉妹共同国際奉仕事業 オムライス体験教室
 4月21日（木）例会 4月28日（木）例会

WEEKLY BULLETIN
OSAKA
NAMBA
 大阪難波ロータリークラブ週報



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

（国際ロータリー会長 シェカール・メータ）
 2021-2022年度 国際ロータリーのテーマ
 「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」
 （第2660地区ガバナー 吉川秀隆）

今日の卓話	次回の卓話	ロータリー4つのテスト
3月24日（木） 休会の為、ありません	3月31日（木） テーマ 「日本一の大地主」 卓話者 本間一成会員	言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

3月24日（木）は例会の予定でしたが

本日は休会といたします。

♪ 四つのテスト

真実かどうか
 みんなに公平か
 好意と友情を深めるか
 みんなのためになるかどうか

ニコニコ箱報告	
前回の合計	¥0（休会）
本日までの累計	¥1,500,000（64%達成）
3月末の予算額	¥2,990,000

出席報告		
前回	3月17日（休会）	3週前 2月24日（休会）
会員総数	58名	出席免除を除く MUを含む 修正出席率
出席会員数	名	
出席率	%	

大阪難波ロータリークラブ 例会日時 毎週木曜日 12:30
 創立 1976年8月5日 例会場 スイスホテル南海大阪7階 芙蓉の間
 会長：西原芳博 幹事：中川静夫 会報・雑誌委員長：赤坂 宏 事務局：安部亜希子
 事務局 〒542-0076 大阪市中央区難波5-1-60 スイスホテル南海大阪5階
 TEL 06-6632-3956 FAX 06-6632-3957 e-mail osaka-namba@poem.ocn.ne.jp

3月は「水と衛星月間」です

★来客紹介：ありません

★会長報告：西原会長

1. 皆様、こんにちは。

先日、大阪難波ローターアクトクラブのある会員（A君）から相談を受けました。

A君は、昨年夏過ぎに入会したばかりの社会人1年目の23才ですが、RACへの熱い気持ちと、皆を盛り上げる明るさを買われ、今年、来年とRACの執行部を任されています。そんな彼が急遽、私にラインがあり、相談があるので15分ほど時間が欲しいとの事でした。

話を聞くと、今のRAC運営にあたり、一人で抱え込んでいるように思えたので、夜に呼び出し、食事をする事となりました。

A君は私に会うなり、貴重なお時間をありがとうございます、とお礼を言ってくれるやいなや、自分が作ったレポートを差し出しました。内容は理想の組織、目的、具体的な存在意義などを、彼なりにまとめたものでした。

まだ始まったばかりのRACですが、コロナ禍で思うような運営が出来ず、出席人数は減少しつつある中で、自分が前をむいているのに何故、皆がついてきてくれないかと、少し不安も抱きながら、自分を責め立てていました。それに対して、何か助言をもらいたいとの事でした。

私は、それに対しては、前向きな気持ちは大切だが、自分で全て抱える必要など全くないし、最初から全てうまくいくはずもないし、何より社会人1年目で社会人としては子供と言っても過言ではないという事と、最も大事なものは、今、A君の周りにいる仲間思いを伝えて賛同してもらい、手伝ってもらえないかとお願いして、皆でクラブを作り上げていくという気持ちが大切ではないかとお伝えしました。

私の会長での経験にも照らし合わせて、自分の独りよがりの思いだけでは、十人十色の色んな会員様に手伝ってもらうなんて不可能だし、思いを伝えても全てがうまくいくわけではないと。私自身もロータリアンとしてまだまだで、発展途上の中、沢山の方の助けをこうむりました。

A君はまだまだ若く、自分が引っぱる責任感が強すぎるがあまり、会員に目を向けていなかったと思い返していました。

今回のやり取りで、こういったことも一つの青少年奉仕だと実感したと共に、自分を彼らのギラギラした姿とも照らし合わせ、冷静に復習する事、新たに彼らから学ぶ事もあります。

奉仕は相手に与える事と、その言動によって自分を見つめなおし、自分を成長させる事ができる素晴らしいものではないかと、改めて感慨深く考える時間になりました。RACを通じて、彼らと共に自分も成長できるように、また皆様のお力もお借りして、ロータリー活動をしていきたいと思った次第です。

★幹事報告：中川静夫幹事

1. 3月31日例会を再開させていただきます。
2. 3月31日例会終了後、臨時総会を開催させていただきますので、少しお残り下さい。
3. 4月7日例会終了後、定例理事会を開催させていただきますので、理事役員の方はご出席下さい。
4. 今年度大阪のロータリー100周年を迎えるに当たり、第2660地区が記念誌の編集を進めております。①100周年記念誌クラブの広場（仮称）への掲載原稿②地区心の玉手箱（仮称）への掲載原稿の提出依頼がありました。100周年記念誌では「クラブの広場（仮称）」と題して、地区内全クラブを紹介するセクションを設けます。また、「地区心の玉手箱（仮称）」と題して、ロータリー活動、ロータリーファミリーに関わる感動物語、眼から鱗の落ちる体験等、いわゆるロータリーマジックと言われる事例紹介のセクションを設けます。今回は「地区心の玉手箱（仮称）」をご紹介いたします。（4ページ目に掲載）

★委員会報告：ありません

★ニコニコ箱報告：ありません

★卓話：ありません



シェカール・メータ
2021-22年度会長
2022年3月

RI会長からのメッセージ

この2年間で、私たちは数多くの難題を解決し、数多くの人びとの人生をよりよく変えてきました。今年、皆さんが「Each One, Bring One（みんなが一人を入会させよう）」イニシアチブを通じてロータリーの成長に全力を尽くしてくださったことを、私は心から嬉しく思っております。おかげで会員数は大きく伸びました。この勢いに乗りましょう。また、ロータリー奉仕デーには世界中でロータリーの活動を紹介するプロジェクトを企画されたのも嬉しく思います。140万の会員を擁するロータリーの未来は、これまで以上に明るく光りかがやいています。

2020年3月11日に世界保健機関が新型コロナウイルスのパンデミックを宣言してから2年が経ちます。その今、疾病予防と治療というロータリーの重点分野における専門知識を活用し、パンデミックにあえぐ世界中の人びとの援助を今後も続けていくことが肝要です。パンデミックは私たちのあらゆる想定を超えつづけていますが、恐れをなして立ちどまってはなりません。ロータリーの活動はあまりにも重要ですから。お互いのために時間をとることもまた大事です。ヒューストンで開催される2022年ロータリー国際大会にぜひご参加ください。安全に配慮しつつ、みんなでロータリーの奉仕活動を称える素晴らしい機会です。

ロータリーは、リソースを活用して恵まれない人びとを助け、未来を信じつづけることで、これからも世界に希望と平和をもたらすつづけます。パンデミックの特に大きな影響を受けているのは、世界中の女兒です。パンデミック宣言から1年となる日に、UNICEF（国連児童基金）事務局長のヘンリエッタ・フォアさんは「女兒とその家族の被害軽減は喫緊の課題」と語っています。残念ながら、それから1年経ってもこの問題は依然として解決されていません。パンデミックは女兒特有の被害をもたらしました。学業不振、就職の見込みの悪化、それに児童婚や人身売買の増加などの悲惨な結果を招いています。

UNICEFによるデータは、なぜ対策が必要かを如実に物語っています。2010年代には児童婚の撤廃に向けて大きな進歩が見られ、UNICEFの推定では全世界で2500万件の児童婚が回避されました。残念ながらパンデミックによりせっかくの成果も空しく事態は後退し、2019年の終盤には児童婚のリスクがある女兒の数が1000万増加という結果に。

だからこそ、女兒のエンパワメントは非常に重要な活動なのです。今年の国際協議会ではうれしいことにジェニファー・ジョーンズ会長エレクトがこのイニシアチブの1年間延長を明言しました。世界中を旅する中で、女兒のエンパワメントの目標達成を支える素晴らしいプロジェクトをクラブが実施している数多くの例を目にしました。しかし、本当の変化は何年にもわたり尽力してこそ可能だということは、ロータリーの一員なら誰でも知っているところです。それこそ、グローバル補助金や重点分野プロジェクトのなせる業なのです。

補助金プロジェクトを計画する際には、ぜひ変革的な女兒のエンパワメントを検討してください。女兒の教育、医療、経済的機会を向上させるために何か手を打てば、女兒が持てる力を発揮できるように大きな後押しをすることになります。機会があれば希望が生まれ、希望が生まれれば世界中の紛争の根本原因に対処でき、持続可能な平和の土台が築けます。

新型コロナウイルスの蔓延があと何年続くかは誰にも分かりません。世界が今後どのような困難に直面することになるかは、ポリオ根絶に向けて何十年も根気強く活動してきた団体としてロータリーがほかの誰よりもよく理解しています。だからこそ、この先も未来を見据えて、何が可能かということ、つまり、かつての生活様式を懐かしむのではなく、このパンデミックを「みんなの人生を豊かにするために奉仕する」チャンスとして活かす未来を心待ちにするべきなのです。この素晴らしい活動を皆さんと今後も続けられることを光栄に思います。